

## 占領期日本の衛生教育に関する考察

—「公衆衛生列車」の概要について(3)—

田中 誠二<sup>1)</sup>, 杉田 聡<sup>2)</sup>, 丸井 英二<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>新潟大学人文社会・教育科学系, <sup>2)</sup>大分大学医学部, <sup>3)</sup>人間総合科学大学

**【研究の背景】**本報告では、現在進めている占領期日本の衛生教育に関する調査のうち、「公衆衛生列車」(Public Health Train)を取り上げる。公衆衛生列車とは、当時、衛生知識の普及・啓蒙を目的として全国各地を巡回した列車で、「衛生列車」や「衛生移動展」などとも呼ばれた。これまでの調査で次のような点が明らかになっている(第72回日本公衆衛生学会総会(2013年10月:三重)にて第一報、第78回日本民族衛生学会総会(2013年11月:佐賀)にて第二報として報告した)。

- (1) 公衆衛生列車の運行は厚生省主催で実施されたが、占領軍(特に公衆衛生福祉局(PHW)と民間情報教育局(CIE)の関与があった。
- (2) 列車は3両編成でそのうち2両が展示車両として公衆衛生・福祉に関する模型や写真、ポスター、図などが陳列された。残りの1両は係員の宿舎にあてられた。
- (3) 1947(昭22)年11月1日、東京・原宿駅を出発駅として関東地方の巡回を開始した。東京駅での3日間の展示には1万5千人を上回る人びとが観覧に訪れた。
- (4) ①関東地方での巡回に続き、②九州地方、③近畿・四国・中国地方、④東北地方・北海道、⑤中部・北陸地方の順で約1年間に及ぶ旅程が組まれた。
- (5) この運行が契機となって1つの健康イベントが形成され、大きな賑わいをみせた事例が確認される。

**【目的】**本報告では続報として、戦後占領期に一般市民向けの衛生教育として企画・実施された「公衆衛生列車」の運行について検討し、概要を整理する。

**【方法】**国立国会図書館憲政資料室に所蔵されているGHQ/SCAP文書や当時の新聞・雑誌に掲載された関連記事を探検・収集し、時系列に整理することで概略を検討した。

**【結果と考察】**PHW作成の文書「Weekly Bulletin」(23-29 Nov. 1947)には、九州地方以後の公衆衛生列車の旅程(各地方の運行期間)が記載されたが、のちに修正され、実際の運行は当初の予定よりも遅れて実施された(例えば、九州地方は約20日間遅れて運行が実施されている)。近畿・四国・中国地方(Kinki, Shikoku, Chugoku)においても同様に、当初1948(昭23)年3月8日~6月23日に運行が予定されていたが、修正後のスケジュールでは4月24~6月25日となっている(Weekly Bulletin (12-18 Apr. 1948))。ここでは運行開始が遅れるだけでなく、大幅な“期間短縮”がなされた。どのような理由によるものか現段階では不明だが、そこに掲載されたスケジュールには四国地方の駅名が記載されておらず、この期間短縮は四国での巡回を取りやめたことによるものと推測される。当時の徳島新聞(徳島市立図書館所蔵、マイクロフィルム)においても公衆衛生列車に関する記事を確認することができず、四国の各県を運行することはなかった可能性が大きい(なお、本州-四国間は鉄道連絡船が就航しており貨車ごとの輸送は可能であった)。

当日の発表では、近畿・中国地方の旅程を当時の国有鉄道路線図に重ねて示しながら報告する予定である。

本研究は、日本学術振興会科学研究費 若手研究(B)「占領期日本の学校における感染症対策に関する実証的研究」(研究代表者:田中誠二)、基盤研究(C)「占領軍公衆衛生福祉局と厚生省との協同・対立に関する考察—GHQ文書による検証」(研究代表者:杉田聡/研究分担者:田中誠二)の成果の一部である。